

過去に実施した地域支援ネットワーク推進事業の実績及び現状把握

事業実績（総論）

	実績
H24	府内二次医療圏域 4 圏域（豊能、三島、南河内、堺）に高次脳機能障がい者を受け入れるグループホーム等を整備。
H25	府内 8 つの二次医療圏域（大阪、豊能、三島、北河内、中河内、南河内、堺、泉州）にて高次脳機能障がい支援の中核的拠点を含め、高次脳機能障がい者が身近な地域で医療や福祉が受けられるよう地域支援ネットワークの自立的運営を推進。 二次医療圏 8 圏域のうち、5 圏域で高次脳機能障がいに先進的に取り組む法人等に圏域内ネットワーク構築を委託。 （「地域支援ネットワーク体制整備委託」事業費：500,600円（委託料））
H26	二次医療圏域 8 圏域のうち、7 圏域で委託。
H29	多職種・多機関による連携の幅が広がり、地域支援ネットワークが確立されたとして平成29年度に事業終了。今後は市町村による各圏域の自立的運営に向けて、府からは各圏域の特色に合わせた適切な助言・研修等によりフォローアップを実施することとした。

過去に実施した地域支援ネットワーク推進事業の実績及び現状把握

二次医療圏域毎の実績①

	大阪市	豊能
H24	—	高次脳機能障がい者を受け入れるGH等を整備。
H25	—	地域の機関を知ってお互いを知るということを目的に、豊能府民センターにて講義等実施。
H26	市内の高次脳機能障がい支援の現状について情報交換、各支援機関の状況把握や情報共有の重要性を認識。支援状況に係るアンケートを実施。	高次脳機能障がいの方の復職をテーマに作業部会や圏域NW会議を実施。ほかMLにより高次脳機能障がいに係る情報共有を試みた。
H27	高次脳機能障がいに係る各種研修会や圏域NW会議を実施。	NW会議や作業部会を実施。また、医療機関・福祉事業所向けアンケートを実施、地域資源の連携の実情を把握。
H28	上記に加え、基幹相談センターと連携し区の相談窓口を整理。	上記アンケートをもとに、シンポジウムやNW会議を実施。
H29	基幹相談センターとも連携し圏域NW会議を実施。	支援リーフレットを作成。事例検討会も交えた作業部会、NW会議を実施。

過去に実施した地域支援ネットワーク推進事業の実績及び現状把握

ネットワーク毎の実績②

	三島	北河内
H24	高次脳機能障がい者を受け入れるGH等を整備。	—
H25	高槻市参画のうえ、NW会議開催。開催にあたり、チラシ・ポスター配布により広報。	ネットワークの中核機関（世話役）選定、病院や行政を絡めた世話役会開催。
H26	共同で研修等開催できるような関係を築くべく、サポーターを募る交流会開催。	NW会議を複数回開催、グループワークでの交流や講演会開催。MLも作成し情報交換や連絡に活用。
H27	圏域内市町村における研修開催、当事者会・家族会起ち上げの基礎作りをテーマに、茨木市にて交流会等、摂津市・高槻市にてNW会議開催。	複数回のNW会議で病院見学の機会を設けるとともに、当事者・家族との関わりに焦点を当てた研修会も複数回開催、GWや交流会、相談会を実施。
H28	NW会議のほか、出張勉強会14回、高次脳機能障がい&失語症講座3回開催。	家族会立ち上げ、参加者主体の運営を推進。NW会議分科会開催し、広報や個別相談ブース設置。
H29	失語症コミュニケーション講座計6日間、ほか出張勉強会や事例検討を交えたNW会議を開催。	事例検討研修会、NW会議（講演やブース展示）。ほか基幹相談支援センター協力のもと勉強会開催や福祉の事業所等に研修会周知を図ってもらう

過去に実施した地域支援ネットワーク推進事業の実績及び現状把握

ネットワーク毎の実績③

	中河内	南河内
H24	NW会議にて相談窓口の明確化や高次脳機能障がい者の周知、資源の提供等課題を抽出	高次脳機能障がい者を受け入れるGH等を整備。
H25	NW会議にて講演会開催。当事者・家族会で研修実施やリーフレット作成。	9市町村を中心としたNW会議にて、当事者や家族の方の談話、GHからの報告を行ってもらう。
H26	NW会議にて模擬事例を通じたGWや就ポツ担当者・作業所担当者による事例発表。行政担当者への参加呼びかけも行う。	NW会議にて講演、当事者・家族からの報告及びGW。NWの愛称を定めパンフやロゴマーク作成等周知を図り、関係機関や行政に会議の周知活動。
H27	NW会議にて多機関で繋いだケースの報告やGWを実施。ほか行政に訪問し参画呼びかけや相談窓口を整理したパンフ作成。	講演や意見交換を交えたNW会議や、松原市に協力を依頼し松原市で研修会開催。
H28	GWを交えた定例会を複数回開催。第2回定例会でケアマネ参加が目立ち、福祉・介護分野の連携も視野に。	NW会議で羽曳野市による事例報告や当事者のお話やGWを行ったほか、各地域で研修会を行い、横の繋がり作りに努める。
H29	定例会での講演会や事例検討、NW会議での講演や情報交換等実施。	NW会議にて事例報告、当事者会代表のお話、GW。

過去に実施した地域支援ネットワーク推進事業の実績及び現状把握

ネットワーク毎の実績④

	堺	泉州
H24	高次脳機能障がい者を受け入れるグループホーム等を整備。	—
H25	行政、医療機関、事業所の連携によるNW推進会議開催、勉強会や研修会を計7回開催、懇談会開催や福祉関連の会議出席等	NW会議にて高次脳機能障がいの基礎や就労に係る講演や、就ポツ担当者による講演実施。泉州回復期リハ病院部会にて病院の対応能力を確認。
H26	市内各区自立支援協議会への出席、研修会等開催、医師会への協力依頼、NW会議における支援拠点の課題等意見聴取等	高次脳機能障がいに係る症状一覧表を作成、だれでも評価可能な様式作成。NW会議にて医師の講演や実支援内容に係るシンポジウムを行う。
H27	支援普及研修会4回、医療機関への出張勉強会、H26作成のハンドブック1,500部医療機関に配布等	NW会議にて感情コントロール障がいや行政の使い方等をテーマとした講演実施。北・中・南地域それぞれでネットワーク構築。
H28	生活リハ便りの発行、出張勉強会14回等	NW会議にて講演、事例報告、GW等
H29	支援普及研修会4回、出張勉強会11回、ほか自立支援協議会参加や医療機関支援者会議、府支援拠点機関との打合せ等	NW会議にて医療法人、行政、就ポツによる講演や事例検討会実施。

過去に実施した地域支援ネットワーク推進事業の実績及び現状把握

ネットワークの現状把握

現在も継続して活動をされている圏域ネットワーク（泉州・中河内）に現状聴取。
（堺圏域の活動内容等は参考資料 5 - 1 のとおり）

	泉州
構成	事務局：葛城病院 作業部会：【北】就ポツ、府中病院【中】就ポツ、葛城病院ほか 【南】就ポツ、大阪リハビリテーション病院ほか その他市町村障がい福祉所管課
活動内容	年1回の作業部会とNW会議。ほか当事者を介し病院、就ポツ、市町村との連携が行われる。広報は自立相談支援CのML活用、会議や研修会は葛城病院内で行うなど費用を抑え運営。
成果、機能している点等	葛城病院のホームページに「資源マップ」を掲載。 NWの存在も大事だが、連携の中身が重要。病院でも事業所でも、「ここからここまでは出来る」と示し、できない所を埋める別の手段がなければ、ネットワークは機能しない。作業部会の参加機関が、支援の橋渡しを行っている（病院では外来リハを継続しながら、次の事業所へ丁寧な引き継ぎを行う等）。
NWとして苦慮している点	病院・事業所ごとに考えの相違がある中で、事例ごとに出来ることを柔軟に考える必要があるが、「答え」を求めがちになる点。また、業務時間内での協力が困難な可能性がある。

過去に実施した地域支援ネットワーク推進事業の実績及び現状把握

ネットワークの現状把握

現在も継続して活動をされている圏域ネットワーク（泉州・中河内）に現状聴取。
（堺圏域の活動内容等は参考資料 5 - 1 のとおり）

	中河内
構成	事務局：八尾はあとふる病院 役員：サポートスペースこころいど 2 名、基幹相談支援センター 2 名、八尾こころのホスピタル、八尾市社会福祉協議会等、八尾のほっと・ケーキの会（家族）、東大阪え〜わの会（当事者）ほか
活動内容	研修会、役員会（主に研修企画を行うが、2020年度は研修企画の代わりに事例集フォーマット作成と事例収集等実施）。事務局は、病院の地域支援の一環として活動を認めてもらっている。府の業務委託終了後は極力費用がかからない形で実施。
成果、機能している点等	役員同士の連携・相談がしやすくなった。研修参加者からは、研修会を通じ、「医療・介護・福祉」それぞれの機能や役割が分かりやすくなったという声があり、研修会参加がきっかけで支援連携できたケースもある。研修参加者がそれぞれの地域の中で、つなぎ役として機能していくことを期待。
苦慮している点	活動を続ける中でさまざまな機関の方に研修参加いただけるようになった一方、圏域内でコアとなって考えてくださる方が固定化されてきた印象。ノウハウがついてきたと考えればいいのかもしいないが、このままでいいのかという思いもある。

過去に実施した地域支援ネットワーク推進事業の実績及び現状把握

総括

- 平成25年度以降大阪府からの委託が行われ、圏域ごとにネットワーク構築やさまざまな圏域内支援活動が実施されたものの、府の事業終了後支援活動が滞っている圏域が多数
- 府の事業終了後も支援活動を継続している圏域は存在するが、財源や活動事業所の固定化等課題がみられる

→府で地域支援ネットワーク推進事業を再度進める必要性